

事業概要票

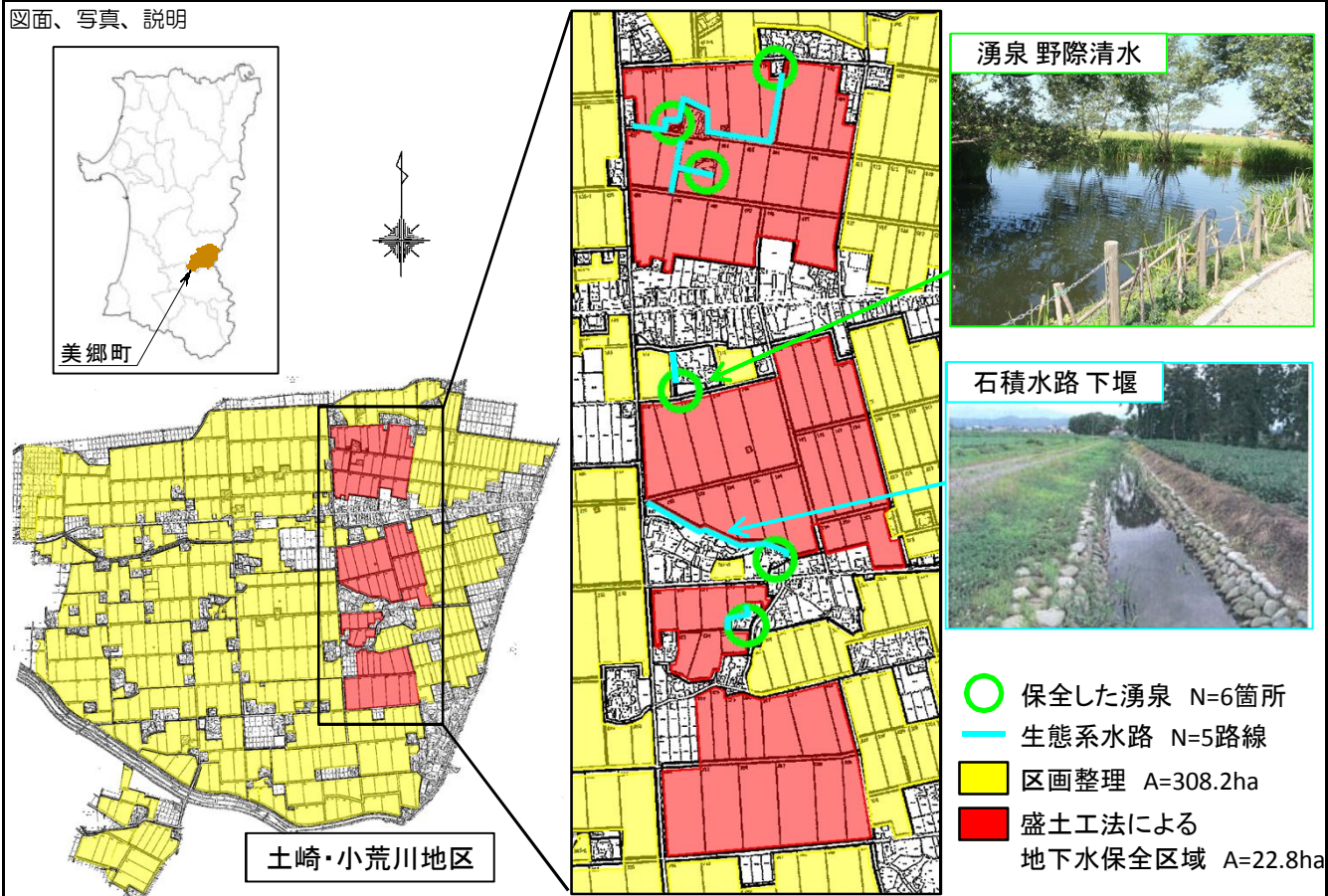
事例NO. 62

事例キーワード

湧水池の保全
稀少生物の保護

事業名		農地集積加速化基盤整備事業 土崎・小荒川地区	湧水池の保全 稀少生物の保護
事業担当機関		仙北地域振興局農林部 農村整備第二課	
事業期間		平成10年～19年	
実施場所		仙北郡美郷町(旧千畑町)、大仙市(旧仙北町)	
事業概要	全体事業費	5,105百万円	
	工事概要	区画整理工 308.2ha	
	事業の目的	本地区は大正初期に整備された10aと小区画のほ場に加え、農道は狭く用排水路は素掘りで兼用水路となっており、大型機械化体系や農地の汎用化を進める上で大きな支障となっていた。 そこで本事業は、点在する農地の集積を行いながら区画の拡大、用排水路の完全分離及び装工、農道の整備等を一体的に実施し、田畑複合経営の確立を図っている。	
環境配慮の内容	1 盛土工法による地下水脈の保全 地下水位が浅く、水路の新設や暗渠排水の設置によって地下水脈が遮断される可能性のある区域に盛土することで、地下水脈の遮断を防ぐ。 2 生態系への配慮した施設 生態系上重要な湧泉6カ所を保全し、それらの湧泉に接続する農業用水路5路線においても生態系に配慮した石積水路で施工することにより、工事完了後も貴重な自然生態系を維持する。 3 地下水位観測によるモニタリング 工事前～事業完了まで湧泉周辺の地下水位観測を続けることで、保全施工の効果を調査・評価する。		
施工後の状況	1 工事完了後の観測でも、地下水位に大きな変化は見られない。 2 希少種であるトミヨ属雄物型の生息数は、適正密度と判断される。 3 事業完了後も、地域の環境保全組合やボランティア団体が率先して維持管理を行っている。 4 地元の小・中学生を対象とした、生態系についての学習会も開催されている。 また、県外からの見学者も訪れ、環境学習の場としての役割を果たしている。		

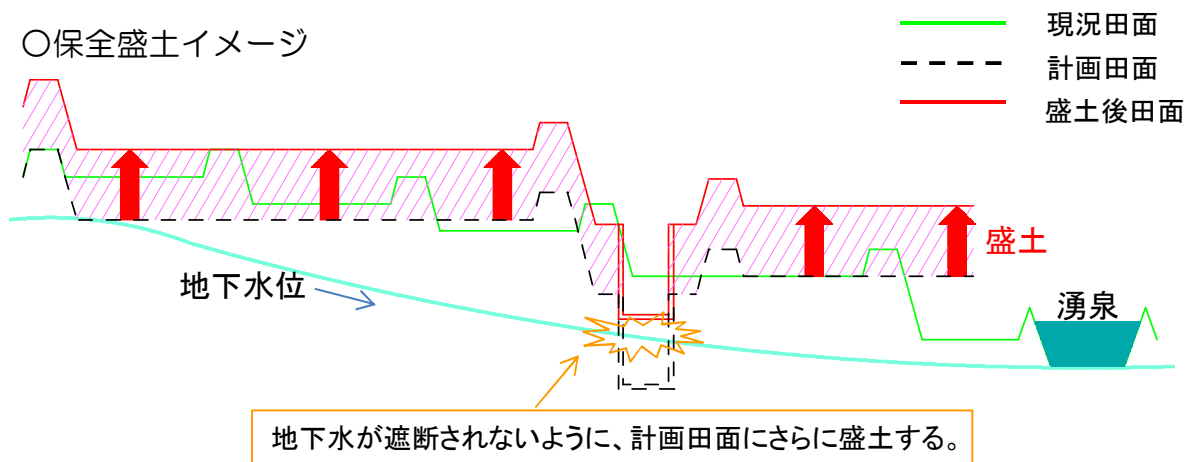
図面、写真、説明



事業概要票
事例NO. 62

図面、写真、説明

○保全盛土イメージ



○事業完了後の地域の活動

- ・湧泉と接続する石積水路の清掃（平成22年7月18日）



- ・美郷町立千屋小学校のピオトープ「ドリームトープ」維持管理（平成24年6月20日）



- ・生態系学習会「しずの学校」（平成24年8月20日） ※バケツの生物はトミヨ属雄物型

